

令和7年度第10回自立支援協議会テーマ別部会
教育と福祉の連携について 議事要旨

1. 開催日時 令和8年1月22日(木) 10時～11時45分

2. 開催場所 まちづくり活動プラザ 1階会議室

3. 出席者 (委員) *団体名のみ記載

パルレ、浦安市肢体不自由児・者親の会「どっこらしょ」、浦安市自閉症協会、
Japan居場所づくりプロジェクト、(福) 佑啓会、(福) 敬心福祉会、(一社) こども未来共生会
浦安市こども発達センター、(福) 千楽、NPO 法人アリスのうさぎ
浦安市教育センター、障がい事業課
(事務局) 浦安市基幹相談支援センター

4. 議事次第

1. 開会

2. 議題

- (1) 令和7年度部会資料まとめ(部会報告書)内容確認
- (2) 令和7年度部会活動まとめについての意見交換(加筆修正を中心に)
- (3) 令和7年度 テーマ別部会「教育と福祉の連携」に参加して

3. 閉会

5. 配布資料

- ・次第
- ・令和7年度テーマ別部会(教育と福祉の連携)部会活動まとめ(報告書案)
- ・令和7年度_教育と福祉の連携_部会まとめ別紙

6. 議事要旨

1) 令和7年度の部会まとめ資料の説明と内容確認

事務局より、報告書の修正を行い、具体的な意見を追加したほうが良いという委員からの意見に基づき、別紙を追加で作成したことを説明。内容確認の時間を取ったうえで、意見交換を実施

2) 令和7年度部会活動まとめについての意見交換(加筆修正を中心に)

[報告書について]

- ・令和7年度_教育と福祉の連携_部会まとめ別紙について修正点なし
- ・報告書(A3)については以下の通り、本日の加筆修正案を反映し、再度委員にメールにて配布することとなった。

- ①裏面(2頁)の最初の文章が長いので、句読点を入れて区切る
- ②裏面(2頁)様々な意見と困難さのタイトルの変更、「・」を入れる
- ③裏面(2頁)の彼ら、彼女らをすべてのこどもたちに変更
- ④関係者の表記を関係者(福祉、教育、当事者、保護者)と列記する

⑤今年度で単発で終わるのではなく、次年度にも続いていく取り組みであることを最後に記載する、今年度の議論で到達した段階などを記載する。

⑥部会の成果を出すことの困難さの原因の一つが部会構成の時間軸にあったことを記載するのはどうか。

〔その他の意見～前回の部会に関連した事項～〕

・令和6年通知 文科省・厚労省・こども家庭庁共同通知「地域における教育と福祉の一層の連携等の推進について（通知）」については、教育委員会は学校に通知済みであることを確認した。

改めて、この通知をはじめ国通知については、教育委員会としては研修等で説明を設けるなどの取り組みを行う予定。

・福祉行政としても、令和6年通知は福祉領域の専門的な言葉や仕組みが記載されていることから教育委員会が令和6年通知についての研修等を行う機会があれば、積極的に関わり、先生方にわかりやすく伝えるために協力、協働したいと思っている。

・学校によって（福祉との連携が）できている、できていない、の差があるように感じたことから、教育現場の声を聴いてみたいと思った。

・保護者の皆さんにも、令和6年通知の存在を知ってもらい、活用することができればと思う。

3) 令和7年度 テーマ別部会「教育と福祉の連携」に参加して

・部会にどこまで力があるのかは気になる。ただ意見を述べ合って終わりならば、やはり時間の無駄になってしまう。トップダウンで物事を変えていくなれば、やはり、権限がある場所につながり、説明するルートを持つことや、その役割を遂行する人、組織を考えると市の事業を行っていることから、福祉領域の人たちの声、意見を出してもらい、それを取りまとめ、教育側に伝えることは出来るかと思う。連携の具現化という点では、部会で検討することの限界があるように感じた。

・当事者の存在無くしての施策検討は的外れになる。部会に参加して合理的配慮についての理解がバラバラだと感じた。正直なところ、教育だけでなく福祉の人たちの合理的配慮の理解が不足していることから、当事者の声を代弁されることに不安や怖さがあった。

・部会での議論を現場の仕事に活かしていきたい。

・昔の資料を確認してみたら、15年前からこのような議論をしていて、その当時「急がないと子どもたちは大人になってしまう」と言っていたが実際、大人になった。

この議論をあきらめずに続けていくことが必要だと思う。テーマ別部会が始まる前に「要望する」「要望を受ける」関係性ではないとの説明があった。確かに、以前の自立支援協議会を思い起こせば、質問する側、質問に対して「できる」「できない」を答える側に別れてしまい、雰囲気がよくない状況はあった。とは言え、以前は市から「要望書をあげてほしい」と言われ、足りないものができてきた感がある。

・今の子どもたちの困り度を解決していくことが、子どもたちへの一番の支援になり、大切なこと。

このような部会があることが希望につながるし、目的に向かって前に進んでいくことが大切だ。

・貴重な時間であった。研修などで、この部会で出た意見を教育現場で落としとしていけるように頑張りたいと思った。

・知らないことは無力だと思いながら参加したが、様々な意見を聞いて、確かに非常に難しい課題であることが分かったが、一方で子どもの権利条約、合理的配慮、仕組みづくりなどやれることはまだまだある。テーマ別部会が課題解決型で進むとすれば、テーマを絞ってアプローチをしていく場として進めていければと思っている。

・順調に展開されていると思っていたが、始まるとテーマが広く深くで難しい問題であると感じた。
知っている気にならず考えていきたい。

事務局より部会報告書最終版を皆さんにメール配信するのでご確認いただきたい旨を伝え閉会。